



●書籍のご購入や内容等については最寄りの書店や発行元にお問い合わせ下さい



『運は遺伝する 行動遺伝学が教える「成功法則」』

橋玲・安藤寿康 著

NHK 出版 刊

定価 1,078円 (本体980円+税)

私たちが生まれ持った遺伝子は、知能レベルや性格のみならず、行動や運命に多大な影響を与えている。行動遺伝学者の安藤寿康氏と作家の橋玲氏が対談し、そんな遺伝子について掘り下げた。

遺伝情報の解析技術 GWAS (ゲノムワイド関連解析) の発展によって、遺伝的な見地から人の未来がどうなるのかを高確率で予測できる時代になった。この技術を使えば、これから生まれる子どもが大学を卒業する可能性まで予測できるというのだから驚きだ。本書は遺伝子の特徴がどのような環境下で発現するのかを解説し、今後、遺伝子情報をどのように社会と人生に活かすべきであるのかを問いかけている。

安藤氏は、誰もが自分の適性を見極めて、それに合う仕事ができるような社会構造にできる未来を展望する。一方、橋氏は遺伝的に問題を抱えた人が社会にどう包含されればい

いのかという倫理的課題を提起する。遺伝子は犯罪や心身の障害など、百般の不利な事柄にも影響している。人の将来における遺伝子情報の影響が明らかになることは、差別や排斥を助長させるのだろうか。優位な遺伝学的情報を持つ者だけが雇用や保険で優遇される社会になってしまうのだろうか。

本書を読むと、遺伝子の強大な影響という不穏な事実に関心される。しかし、自分たちの現在を正しく認識することが未来構想の手がかりになるとも気づかされる。

最近、旧優生保護法 (1948 ~ 96年) のもとで障害などを理由に不妊手術を強制された人たちが国を訴えた裁判で、最高裁判所大法廷は、旧優生保護法を憲法違反とする初めての判断を示した。プロメテウスの火を私たちがどのように使うかが問われている時代なのだ。行動遺伝学の科学的知見は、人間同士が異質であることの価値を認め、排除を抑制できるようになるために使われていくべきものなのだと本書に教えられた。

(日本農業新聞 齋藤 花)